

お知らせ

INFORMATION

No.2022-13

2022年4月

病体生理研究所

新規受託開始および受託中止のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。併せて旧検査コードにつきましては受付中止とさせて頂きます。

何卒、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

【新規受託項目について】

- ◆ HIV-1/2 特異抗体〔38161〕…検査実施施設 S

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2022年5月16日（月）受付分より

【検査中止項目】

- ◆ HIV-1抗体（ウエスタンブロット法）〔13373〕…検査案内P.63 検査実施施設 S
- ◆ HIV-2抗体（ウエスタンブロット法）〔14138〕…検査案内P.63 検査実施施設 S

《最終受付日》：2022年6月18日（土）受付分まで

【新規項目情報】

項目名称	HIV-1/2 特異抗体
コード	38161
検体材料	血清 0.5mL
保存安定性	冷蔵 (7日)
検査方法	イムノクロマト法
基準値	(-) 報告は親展報告になります。 FAX の送信はできません。
報告範囲	(-)、判定保留、(+)
所要日数	4~7日
実施料 (区分)	660 点 (D012 46、49)
判定区分	144 点 (免疫)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・他項目との重複依頼は避けて下さい。 ・確認検査 (イムノクロマト法) は追加でのご依頼は承れません。ご依頼の際には、改めて採血しご提出ください。

HIV-1/2 特異抗体

HIV は AIDS (後天性免疫不全症候群) 発症の原因ウイルスで、持続感染の末に宿主の免疫システムを破壊し免疫不全を引き起こすことが知られています。その結果、発熱、疲労感、体重減少及びリンパ節腫脹等の全身症状に始まり、機能不全を主とした細胞性免疫不全を基調とし、原虫、真菌、ウイルス、細菌などによる日和見感染あるいはカポジ肉腫のような悪性腫瘍を合併します。

本項目は日本エイズ学会・日本臨床検査医学会の標準推奨法 (参考文献参照) で、HIV-1/2 スクリーニング検査で陽性または判定保留となった場合に実施する抗体確認検査法です。

従来のウエスタンブロット (WB) 法による抗体確認検査法では低い感度や交差反応による判定困難な事例が知られ、本項目で検出感度の改善および HIV-1 と HIV-2 同時測定が可能となり、HIV 抗体確認検査として有用です。

参考文献：日本エイズ学会・日本臨床検査医学会：診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2020 版
Moon H-W, et al : PLoS ONE 10 (9) e0139169 : 1~7, 2015. (臨床的意義参考文献)
Kondo M, et al : PLoS ONE 13 (10) e0198924 : 1~10, 2018. (検査方法参考文献)

以上